

医療・介護の現場で地域との共同を広げ、 たたかいを進める 2018 年に！



明けましておめでとうございます。

昨年に引き続き、新年早々から沖縄では、普天間基地の米軍機が立て続けに、民家の近くに不時着する事件が続いています。このような異常事態でも、安倍政権は普天間基地を即時に閉鎖すべきと米国へ言えません。そればかりか、社会保障費を削減したお金を使い、米国から言われるままに武器を購入しつづけ、軍事費は 5 兆 1000 億と 3 年連続過去最高を更新しています。

国民の実質賃金は過去 26 年間で最低となっている中、政府主導によるバブル経済がつくれ、富の偏在による格差と貧困の加速度は、世界でもトップクラスになっています。平和や生活の問題でも国民との矛盾は極限状態まで進みつつあります。安倍政権は、九条改憲で、戦争できる国をつくり、この矛盾を突破しよ



うと必死です。無差別平等の医療を綱領に持つ民医連にとってその存在意義をかけた運動が期待されています。たたかいの展望はあります。昨年大きく広がった市民と野党の共闘をさらにひろげ、また、医療・介護の現場で地域との共同を広げ、たたかいを進める 2018 年にしてゆきましょう。

(香川民医連会長 中田耕次)



『沖縄に平穏な日々を』

皆さん、沖縄タイムスプラスをご存知でしょうか？ネットで検索すると沖縄の基地問題などが数時間ごとに更新され、沖縄の状況をタイムリーに知ることができます。今年初めて6日に、辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前で新基地建設に反対する市民が座り込みを行いました。現地に行ったことのない私ですが、地元の人たちの切実な気持ちをとても強く感じます。そこに、米軍ヘリがまた不時着したというニュースが続いています。その度に米軍は安全宣言を唱えています。結局何も変わらず同じ事故が頻発しているのですから信頼できるわけがない。この不時着問題の背景に、沖縄の過酷な自然環境が米軍機の腐食を加速させているようです。機体保護を目的に米本国の基地などと、航空機の交換計画が策定されています。また、老朽化や軍事費削減による整備体制の悪化が指摘される中、海域に囲まれ、塩害や強風など沖縄の自然環境も機体に影響を与えていることを示しています。沖縄の自然環境が機体に与える悪影響を米軍当局が認め、世界的な規模で対策を取るの初めてだとしています。だとすると、現状があまりにも危険極まりない状況だということがわかったのですから、即刻基地の撤去をすべきです。河野外相がしっかり対応していくと述べていますが、口先だけで終わってしまうのではないかと心配です。

そして北朝鮮問題。正直自分は信じられないのが唯

一の戦争被爆国である日本の安倍首相の対応です。必要なのは対話のための対話ではなく、圧力を最大限に高めることだとトランプ氏を一貫して支持していることです。また、政府は核兵器廃絶を求めながら、核兵器禁止条約に参加せず、米国の核の傘への依存度を強めています。戦争に加担する国になってしまえば、今まで日本が守り続けてきた戦後 70 年の歴史をすべて亡き者にしてしまうのではないのでしょうか。海に囲まれて他国と接していないから戦争も起きず、それによりただ平和ボケしてしまったのは自分たちの方でしょうか？本当は軍事力を持ち、他国を脅かす存在になることが本当の正義なのでしょうか？どちらが正しいか自分たちはこの 70 年で確信しているはず。そして、それを発信できるのは自分たちだけのはず。でも首相は違います。このまま改憲され、戦争に加担できてしまう国になってしまえば、日本しかもっていない大事なものの多くを失ってしまうと感じます。自分たちにできることはたくさんあるはず。皆で手を取り合い、声を大にして改憲反対をアピールしていきましょう。

(コープまるがめ歯科 砂田大輝)

安倍 改憲に

物申す



一言